

NEWSLETTER

No.1

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会 会報 第1号

(2001年10月)

内容 鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会の運営 (野田伸一)
鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会会報の発刊に際して (井坂 潔)
平成12年度鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会総会報告 (野呂忠秀)
鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会申し合わせ事項

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会の運営

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会 会長 野田伸一

昨年、川村軍蔵会長から鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会の会長を引き受けて欲しいとの連絡をいただき、あまり深く考えず引き受けてしまいました。気軽に引き受けてしまったのは、私が JICA のケニア感染症対策プロジェクトに寄生虫病の専門家として長期間かかわっていたこと、それに所属している鹿児島大学多島圏研究センターがアジア太平洋の多島域を対象とする学際的地域研究センターで、研究活動を通じて対象地域の福祉発展を目的としていることがあったのではないかと考えております。私が不慣れなことから、これまでの派遣専門家連絡会の運営では組織として十分な活動が出来なかったことを反省しております。一昨年まで、派遣専門家連絡会の事務局運営は北九州に所在する九州国際センターが担当していたのですが、昨年度からは事務局運営が鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会に移され、会員が自主的に運営していくことになりました。今後派遣専門家連絡会をどうすべきかについて、ぜひ会員の皆様のご意見

をお聞かせいただきたいと思います。

派遣専門家連絡会の目的は申し合わせ事項にあるように、(1)政府開発援助 (ODA) 進展動向に関する調査研究及び提言、(2) JICA 及び JICA 九州国際センターの業務遂行の方途に関する助言、支援等、(3)鹿児島県と海外諸国 (特に開発途上国) との国際交流活動の促進、充実に資する諸活動、(4) 会員相互の情報交換・交流・親睦に関することです。簡単にすると、JICA の活動に対する支援協力と国際交流への貢献ではないでしょうか。また、派遣専門家連絡会の役割として、会員への情報提供もあります。今回発刊することになった派遣専門家連絡会の会報はこれらの活動の基本となるもので、今後内容を充実させていきたいと思っております。

会員皆様のご協力により、この鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会の活動が活発になることを願っております。

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会会報の発刊に際して

JICA九州国際センター 所長 伊坂 潔

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会会報の発刊に際しまして、JICA九州国際センターを代表しご挨拶申し上げますとともにこの機会に最近の JICA 事業の地方展開の状況についてご紹介したいと思います。

まず、本年、3月23日に開催された平成12年度鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会総会においては、ご出席された方々から種々の貴重なご意見、ご助言を賜り有難うございました。総会での意見交換の主なポイントのひとつは、国際協力を積極的に取組むことができる環境をいかに作り出していくかということではないかと思われまふ。そのためには長い道のりが必要と思われまふが、この連絡会会報の発刊もその大きな第一歩ではないかと思われまふ。

近年、地方の国際化が進展したといわれていますが、地方自治体、大学機関、NGOにおいて国際交流、国際協力に取り組む環境は異なっておりますが、それぞれの場で国際交流、国際協力に対する理解の輪を拡げていくことは依然として重要な課題といえるのではないかと思います。その中で以前国際協力を携わった方々がその経験、ノウハウをそれぞれの場から地域社会に向かって波及させていくことは、その大きな力になると思われまふ。

事実、専門家連絡会の方々はいろいろな形でこのような活動をされており、所属する職場での国際協力への取組みを始めとして、地域の学校、公民館等々での講演、市民のための国際理解講座の講師等々専門家としてのご経験、ノウハウを紹介されております。また、JICA 事業のひとつである青年招聘計画のなかで開発途上国からの研修員をお世話頂いたこともあります。さらに、なかには一市民として NGO 活動に参加され、開発途上国で草の根活動を支えている方々もお

られるなど、地域での国際交流、国際協力を積極的に進められております。

さて、JICAにおきましても国際協力の地方展開を図り、国際協力を地域に根の張ったものにしていくことを重要課題のひとつにしております。この背景としては、開発途上国のニーズが多様化しており地方自治体、大学機関、NGOなどの有する経験、ノウハウが必要になってきたこと、特に、環境対策、保健・衛生、教育など開発途上国の住民に直接裨益するような協力分野にはこのような経験、ノウハウが必要になってきたのではないかと考えられます。

私共、JICA九州国際センターにおいても、各地方自治体、大学機関、NGOによる地域からの国際協力との連携を積極的に推進しております。研修員受入れにおいては九州各県での特徴のある研修コースを開拓しており、鹿児島県では平成11年度から「持続可能な循環型農林業」をテーマに研修を実施しております。この研修コースは、カラモジア財団、鹿児島大学の土着菌を利用した土造りを基本とする農業技術の経験、ノウハウを学んでもらおうとするもので今までアフリカ諸国から21名の研修員を受入れました。また、研修期間中、循環型農業林業について考えながらアフリカへの理解を深める「アジア・アフリカ共生フォーラム」を開催し多数の市民が参加しました。

また、当センターは青年海外協力隊の募集説明を九州各地で開催しておりますが、それぞれの県には協力隊活動を経験したOB、OGの組織である「青年海外協力会」があり、また、協力隊をいろいろな形でサポートする「支援する会」が組織されており、地域の国際交流、国際協力の活動に大きな役割を果たしております。昨今、教育現場においては総合的な学習が導入される状況の中

で国際理解教育をどのようにすすめるかについて関心が高まっております。本県においては鹿児島県国際交流協会が主体となって「留学生と協力隊OBが先生」プログラムを実施しており、協力隊の活動を経験した方々が教育の現場で体験や現地の実情を紹介する機会も徐々に増えてきております。

さらに、平成11年度から「開発パートナー事業」として、地方自治体、地域の大学機関、NGOによる開発途上国における草の根活動を支援するプログラムが始まりました。当センターは各地で情報交換をしながら案件を発掘したり、共同して具体化を図るなどして地域からの国際協力との連携を図りつつあります。鹿児島県では、昨年度ラオス

の寄生虫対策活動をされているJADDOに対して支援を行なうことが決まっております。

以上のような地域の国際交流、国際協力との連携を強化しようとする最近の動きのなかで派遣専門家連絡会に対する期待も大きく、技術協力専門家として御活躍された経験、ノーハウをいろいろな形で社会に還元し地域からの国際交流、国際協力の輪を拡げて頂くようお願い申し上げる次第です。

最後に、鹿児島県JICA派遣専門家連絡会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げ、派遣専門家連絡会会報発刊のご挨拶と致したいと思っております。

平成12年度鹿児島県JICA派遣専門家連絡会総会報告

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会 幹事 野呂忠秀

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会総会は、平成13年3月23日（金）午後4時から、鹿児島市のKKR「敬天閣」で開催されました。この総会は、元JICAエキスパートの情報交換の場として毎年開催されているもので、今回は、25名の参加者の中に、鹿児島県と鹿児島市の国際交流課、国際交流協会、青年海外協力隊OB会・協力隊を支援する会からの来賓の参加も賜りました。

総会に先立ち、JICA九州国際センター・伊坂潔所長から、日本のODAの動向やJICAの機構改革についての説明がありました。また、連絡会幹事から、平成12年度の活動報告が行われ、県内外の講演会に会員が

講師として派遣されたことや、鹿児島市国際交流市民の会「国際交流会議2000」の運営に協力した経緯などが紹介されました。さらに、平成13年度の活動としては、「会員名簿」を作成し「会報」を発行することが諮られ、承認されました。

その後、インドネシアから帰国したばかりの（財）カラモジア・竹下宗一郎氏による「スラウエシ貧困対策支援村落開発プロジェクトの思い出」と題する講演がありました。

総会に引き続いた懇親会では、会員の国際協力体験談などの披露があり、和やかな雰囲気の中で午後7時に散会しました。

現在の鹿児島県JICA派遣専門家連絡会役員は下記のとおりです。

顧問 井坂 潔 JICA九州国際センター所長
会長 野田伸一 鹿児島大学多島圏研究センター教授
幹事 野呂忠秀 鹿児島大水産学部附属海洋資源環境教育研究センター教授
幹事 北 香理 Festa TD 代表・国分メンタルクリニック副院長

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会申し合わせ事項

(平成 12 年 2 月 29 日)

1. 趣旨

わが国における開発途上国に対する国際協力活動の一層の拡充要請、九州及び鹿児島県における国際交流活動の活発化、国際協力事業への参加志向の高まりが顕著な今日、開発途上国で国際協力活動の第一線に身を置いた共通体験を有する我々は、持てる知識・エネルギー等を結集して、前記の動向の有効な発展に資すると共に、県内の現居住地において我々の体験を活用する方途の具体化を期して、本会をここに結成する。

2. 事業

本会は前項の趣旨の具現を図るため、下記に係わる事業を行う。

- (1) 政府開発援助 (ODA) 進展動向に関する調査研究及び提言
- (2) JICA 及び JICA 九州国際センターの業務遂行の方途に関する助言、支援等
- (3) 鹿児島県と海外諸国 (特に開発途上国) との国際交流活動の促進、充実に資する諸活動
- (4) 会員相互の情報交換・交流・親睦に関すること

3. 会員

本会の趣旨に賛同する JICA 派遣専門家経験者。

なお、今後帰国し、当会に入会を希望する専門家は、当会に入会届を提出するものとする。

4. 会長及び幹事

- (1) 会の運営を円滑に行うため、当会に会長 1 名および世話役として幹事 2 名を置く。
- (2) 会長は会務を総括し、会を代表する。
- (3) 幹事は適宜幹事会を開いて、所要の協議・決定を行い、会員の協力を得て、第 2 項に定める会務の執行に当る。
- (4) 会長及び幹事の任期は 2 年とする。但し、再任は妨げない。
- (5) 本会に顧問として、JICA 九州国際センター所長の職にあるものを充てる。
- (6) 本会に臨時会計役を定め、所定の会計処理をおこなう。

5. その他

この申し合わせ事項を改変、もしくは新たに会則を設ける場合、幹事会が原案を策定し、会員の過半数の同意 (集会又は郵送による) を得て施行する。

編集後記

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会会報・第 1 号をお届けいたします。

昨年度から、九州国際センターが担当していた事務局運営を連絡会が主体的に運営することになりました。連絡会の自主的な活動が求められており、会員の皆様の運営に関する提案をお待ちしております。平成 13 年度の鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会総会 (平成 14 年 2 月頃の予定) までに会報第 2 号を発行したいと考えており、会報への寄稿をお願いいたします。

(幹事記)

鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会会報 第 1 号

発行 2000 年 9 月

発行者 鹿児島県 JICA 派遣専門家連絡会 会長 野田伸一

〒890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学多島園研究センター内

電話 : 099-285-7390 Fax : 099-285-6197

E-mail : snoda@cpi.kagoshima-u.ac.jp